

【小学校・第1学年算数・いくつといくつ】①

〇〇立〇〇小学校（自分の考えをもち、自分の言葉で伝える授業）

単元の目標

1つの数を2つの数の和としてみる見方を理解し、1つの数を2つの数に分解したり、数の構成を理解したりする。

ICT活用のポイント

画面上で具体物の操作活動をすることができ、その結果をすぐに記録・交流することができる。

【つかむ】

5は2つの数の和として捉えられることに気付く

【追究する】 ICT活用

6から10までの数も2つの数の和として捉えられるか考え、伝え合う。

【まとめる】

10の補数関係について習熟する。

事例の概要（つかむ過程 1時間）

- 画面上でブロック図を操作し、5を2つの数に分解する。
- 5を2つの数に分解する複数の方法を模索する。

→【事例におけるICT活用の場面①－1】

- ワークシートを順序よく並べ替え、重複や欠落がないか確かめる。

→【事例におけるICT活用の場面①－2】

- 分解した結果を画面共有することで、考え方を学級全体で共有する。

→【事例におけるICT活用の場面②】

【小学校・第1学年算数・いくつといくつ】②

〇〇立〇〇小学校（自分の考えをもち、自分の言葉で伝える授業）

【事例におけるICT活用の場面①】（活用したソフトや機能）カメラ・ミライシード（オクリンク）



1つの数を2つの数に分解するために、ブロック図を指で操作させ、その結果をワークシートに記録させた。

1つのワークシートの中に、ブロック図と言葉がまとまっており、円滑に活動を進めることができた。

また、具体のブロックの操作と異なり間違えを容易にやり直しができたり、机から落とすことがなく思考することに集中することができた。

さらに、ワークシートを並び替えることができるため、順序よく並べたときの規則性に気づくことができた。

【事例におけるICT活用の場面②】



自分の考えと発表者の考えを比較させながら説明を聞かせた。

ワークシートをミラーリング機能を使用して提示するとともに手元のタブレットの画面に共有提示することで個の考え方を全体で理解することができた。

また、画面に提示された発表者の考え方と、手元のタブレットの自分の考え方が視覚的に比較することで、考え方の相違点や同意点を見つけることができた。

さらに、タブレットにより自分の考えを全体で共有することで、考えをはっきりと伝えることができた。